

地域医療を育てる会 情報紙

クローバー

CLOVER



発行 地域医療を育てる会
http://www.geocities.jp/haruefjmt/
第1号 平成17年6月20日 発行

救急車が来ない?!

今年の二月五日、松尾町で同窓会の会場を後にした男女の列に、乗用車が突っ込み、次々に人をはねた。八人の負傷者が出たため、救急車の出動を依頼。ところがこのとき、山武管内(東金市、松尾町、成東町、山武町、芝山町、大網白里町、九十九里町、蓮沼村)には二台の救急車しかなかった。このため、急遽、管外の消防本部の救急車に出動を要請し、その間に戻ってきた山武管内の救急車も次々に現場に向かった。八名の負傷者のうち、二名は管外の病院へ、六名は管内の病院へそれぞれ搬送された。八名のうち、四名の方が亡くなった。

一刻を争うような急病人、けが人を病院へ運ぶ救急体制について、山武郡市広域行政組合の消防本部の方にかがった。



四〇分・・・
通報してから、
病院につくまでの時間。



一台の救急車が、通報を受けてから現場に到着するまでの時間は、山武管内では平均で約八分だ。だが、現場から病院につくまでには平均で(つま)り、これよりも長いこともある()

約三十二分かかっている。これは、どの病院が患者を受け入れるかにかかっているのだ。



救急車は遠くの病院まで行かなくてはならない

平成十四年度には、山武管外に搬送した患者が全体に占める割合は22.8パーセント(四台に一台弱の救急車が管外に行っている)だが、十五年度には24.3パーセント、十六年度には25.2パーセントと年を追うごとに割合が高くなってきている。また、十七年度の四月の時点では、さらに高くな

Q 救急体制の厳しい状況を解決していくために、どうしたら良いのでしょうか?

- 住民は
- 救急車を正しく利用する。
 - 病気にならないように気をつける。
 - 怪我をしないように環境を整える。
 - 交通事故にあわないように、また起こさないように対策を立てる。
- 救急隊は
- 住民へ、応急手当方法や、救急車の正しい利用方法を伝えていく。
- 医療機関は
- 地域救急医療体制の充実を図る
 - 病気予防の啓発指導を推進する。



次号では、医療機関の課題を取り上げる予定です。

Q 搬送先の病院はどうやって決まるの?

A. 救急隊員か、消防の指令課から医療機関へ連絡し、交渉する。どの順で連絡をするかというと、①現場に一番近い医療機関 ②本人のかかりつけの医療機関 ③その日輪番になっている病院 の順。患者を受け入れるかどうかは、医療機関が決める。小児科、整形外科、脳神経外科など、医師の数が足りない診療科目は、決定までに時間がかかる。



「救急車が足りない」あるいは「来ない」ということになってしまう。また、もうひとつの問題は、次の急患のための救急車がない場合があるということだ。遠くの病院まで患者を搬送すると、救急車が出払っている時間がそれだけ長くなる。そこで、冒頭の記事のように「救急車が足りない」あるいは「来ない」ということになってしまう。

「救急車が来ない。」
一台の救急車が遠くの病院まで患者を運ばなくてはならない場合、救急車に乗っている患者自身の命が危なくなる。救急隊の方も「病院にたどり着いた方がいいものの、『この人、このあと助かるんだろうか』と心配な患者さんもいる」と言う。



A 山武地域は、医師や看護師などの人的資源、病院のベッド数などの物的資源が他の地域と比べ低水準にあり、いわゆる医療過疎といわれる状態が続いています。そのような中、県立東金病院の老朽化、

Q1 なぜ、今、医療センターを作らなければならないのでしょうか？

今年一月三十日に、東金市文化会館で「山武地域の明日の医療を考える」というシンポジウムがありました。現在、山武地域では、東金市にある山武郡市広域行政組合の中に事務局をおき、県と自治体が協力して「山武地域医療センター」を作ろうとしています。今回は、山武地域医療センター担当の高田参事に、「地域医療センターに関する素朴な疑問」にお答えいただきました。

「地域医療センター」をご存知ですか？

建替え問題が生じ、これを契機に成東病院、大網病院をふくめた医療機能の連携・分担を行い、地域の医療水準の底上げを図る構想が策定されました。構想を策定する中で、特に救急医療や小児医療、生活習慣病への取り組みなどが課題となり、新たな中核病院の設立が必要、との結論に達しました。救急医療、小児医療は他の地域への依存度が高く、その傾向は強まっている現在、このような医療提供体制を早期に作り上げることが地域の喫急の課題ではないかと考えています。

Q2 なぜ、今のままでは困るのでしょうか？

A ①地域の病院では医師不足が深刻化しつつあり、医師にとっても魅力ある病院でなければ、いつそう、医師も来なくなることが考えられます。

Q3 県立東金病院、国保成東病院・大網病院の三つを一つの病院にするというのは本当ですか？

②山武地域は、医療提供基盤が十分確立しているとはいえず、他の地域の病院に行かなければ適切な医療が受けられない状態が続くと考えられます。③救急医療や小児医療などの分野に対応できず、この状態がむしろ拡大していくおそれがあります。

A 県立東金病院については、医療センターが開設されたとき、現在の機能は医療センターに引き継がれます。

国保成東病院・大網病院は、現在地に存続しますが、その役割を替え、新たに建設される中央病院とあわせて医療センターを構成することになります。

Q4 県立東金病院がなくなるといのは本当ですか？

A 県立東金病院は、医療センターが開設されたとき、現在の機能は医療センターに引き継がれることになり、その役割を終えることになると考えています。

したがって、医療センターとしては、病院は三つですが、経営は一つ、ということとなります。

Q6 医療センターのことを話し合っているのは、どんな方たちですか？

A 山武地域医療センター基本計画策定委員会は、山武地域の市町村長、県議会議員、公立病院の病院長や医師会などの医療関係者などで構成されていますが、アドバイザーとしてNPOの代表者や、住民も参加しています。

Q5 医療センターはいつごろ出来るのですか？

A 現在の計画では、平成二十三年度ごろと想定しています。

なお、住民の要望や意見を伺うため、十六年度は住民アンケートやシンポジウムを開催しましたが、今後とも、シンポジウムなどを通して住民の意見を計画に取り入れてまいりたいと考えています。



四つ葉はそれぞれ、医療、住民、行政、福祉の4分野を表します。これら4分野のハート=こころがつながってひとつになってほしい、という希望でもあります。



地域医療を育てる会のシンボルマークです。

そして、一見鉢に見えるような下のラインは、実は「手」。ひらがなの「て」をデフォルメしてつなげています。つまり、両手で守り育てるイメージですね。ようやくこの地域に芽を吹いた4者のつながりを、大切に育てていこうという決心の表れ、ということもできるでしょう。